

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070001286		
法人名	社会福祉法人 みのり会		
事業所名	グループホーム 照日ヶ丘		
所在地	福岡県築上郡上毛町大字安雲585-44		
自己評価作成日	平成23年3月10日	評価結果確定日	平成23年6月5日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年3月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

社会福祉法人みのり会は、昭和63年特別養護老人ホームを最初に開設し、その後地域との交流活動を実施してきました。また近隣には風光明媚な場所も多く、地域外活動を行う面では、環境が整えられています。その点を存分に活用し、施設内だけではなく、出来るだけ、地域に出た活動を行っています。また社会福祉法人全体で行うお祭りも開催されており、法人組織の強みも積極的に利用しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに 印	項目		取り組みの成果 該当するものに 印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
理念に基づく運営				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を理解し、理念をわかりやすく具体化し、職員と日々話し合う機会をもち共通の意識の中で取り組めるようにしている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	学校や地域の行事などに積極的に参加している。買い物や散歩の際は、挨拶を交わしたり、話をしている。近隣の子供や親子連れが芝生で遊べるように働きかけたり、苑の行事にも来ていただけるように取り組んでいる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しでも地域の方に貢献できればと思っているが、実践には至らず。在宅介護支援センターとも協力し、どういう事ができるかを話し合い実施できるかを話し合い実施していきたい。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果や課題に向けた取り組みも報告し意見をいただくようにしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認定更新の機会等に市町村担当者に取り組み等を報告したり、担当者の方からも情報をいただいたりしている。今後も協力関係を気づけるように努めたい。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束になるものを日々の中で具体的に挙げ、職員に理解できるようにしている。玄関はタッチ式の自動ドアで対応をしている。職員は鍵をかける事の弊害を理解しており、行動や落ち着きがない利用者にはさりげなく見守りを行っている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法を理解している。日々の中でどういふことが虐待になるのかを具体的に話し、職員間で注意をしながら虐待防止に取り組んでいる。	

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用されている方がおり、機会があることに職員が理解できるようにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にも十分な説明を行っているが、その後も機会があるたびに、重要事項の項目などを説明するようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族には面会時等、声をかけ何でも言っていたりするような雰囲気作りに努めている。出された意見や要望は職員で話し合い、反映できるようにしている。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見を聞くように心掛け反映できるようにしているが、不満等は言い難い所もある為、把握できていない事もある。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者も事業所を頻回に訪れ、職員に声をかけている。職員の勤務状況等も把握しており、職員が向上心を持って働けるように職能評価を行っている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員募集や採用については、性別、年齢等を採用対象にはしていない。職員に対しても一人ひとりを尊重し、有する能力を認め、業務に反映できるよう配慮している。		
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人全体会があり、その際に利用者の人権その他の研修機会が設けられている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所外で開催される研修にはできるだけ受講するようにしている。研修報告は毎月の全体会で報告している。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流する機会はなかったが、今後近隣の事業者同士で交流を設け、サービスの質の向上に取り組めるようにしていきたい。また、参加は出来なかったが、豊築ケアマネ連絡会に加入し、研修機会や交流の場を増やすようにした。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活状態を把握し、本人の不安な事や思いを受け止め、安心していただける関係作りには努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の話をしっかりと聞き、困っている事等思いを理解し、事業所としてどのような対応ができるかを話し合うようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族の思いや状況を理解したうえで、できる限りの対応ができるように努めている。必要に応じて在宅時のケアマネジャーとも相談している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者のできる力を発揮できる場面を作るように心掛けている。その中で教わることも多くあり、共感したり感謝する気持ちを大切にしている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の生活状況等、ご家族と情報が共有できるようにし、利用者ができる事を一緒に考えていけるように働きかけている。今までの家族関係を理解し、できるだけ良い関係が築けるように支援している。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅に立ち寄った際、近所の方に声をかけたり、馴染みの場所へドライブに行く等し、関係が途切れないようにしている。デイサービスや施設の馴染みの方とも交流の機会を設け関係が途切れないようにしている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に 努めている	みんなで楽しく過ごす時間や気の合った方同士で過 ごせる場面を作るようにしている。利用者同士の関係 がうまくいくように働きかけている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性 を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過を フォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に移られた場合は、ケアプランや支援状況 等を渡し、情報交換を行っている。ご家族からの相談 にも応じている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に 努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で思いや、要望等把握するように 努めている。意思疎通が困難な方には、ご家族等から 情報を得るようにしている。		
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、 これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方等を理解する事は、重要と 考え、ご家族やケアマネジャー等から情報収集してい る。新たな情報についても記録し支援に繋げている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等 の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解し、その中でできる事 を見つけ出せるように努めている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方につ いて、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞ れの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を 作成している	本人やご家族の希望や意見を聞き、反映しているが、 状態変化や要望がない場合はそのままになっている場 合がある。		
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別 記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介 護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や、職員で気づいた事等は、個別 に記録し、情報が共有できるようにしている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態やご家族の意向を配慮し、一緒に外出をしたり、食事の提供もできるように配慮している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護保険以外の情報も把握し、ご家族とも相談し、オムツ給付等を活用している。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所の際に、主治医の変更を勧めたりせず、今までのかかりつけ医がそのまま診ていただけるように話をしている。遠方等の医療機関については話し合いをもち、既往歴から判断し対応できる医療機関を紹介している。		
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、利用者の健康管理や状態変化に応じた対応ができるようにしている。体調変化や些細な表情の変化を見逃さないように職員間で声をかけ合うようにしている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、本人の支援方法の情報を医療機関に提供している。職員もできるだけ面会に行き、その都度医師や看護師に状態を伺い、ご家族とも連絡を取りながら早く退院ができるようにしている。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の対応については、主治医とご家族を交え話し合いをもち、事業所としてできる事、できない事を十分に説明し理解していただいている。可能な限りホームでケアを行う方針であり、職員も理解している。		
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを整備し、対応ができるようにしている。異物除去法や吸引器、酸素の使い方等日頃から対応できるようにしている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に協力していただき、避難訓練や消火訓練等を実施し、独自でも通報の訓練などを行っている。近くの団地の方にも協力していただける体制を築いている。		
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を心掛け、尊厳を傷つける事のないように言葉使いには、十分注意するようにしている。		
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	能力把握を行い、個々の利用者に合わせた声かけを行うようにしている。飲みたい物や食べたい物は選んでいただくようにしている。意思表示が困難な方には、表情を読み取るようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今までの利用者の生活習慣を大切に、希望に添えるように支援している。一人ひとりのペースや体調に配慮しながら対応をしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の馴染みの理美容院で希望に合わせたカットや毛染めをしてもらえるように連携を取っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付けや後片付け等は職員と一緒に、職員も利用者と一緒に食事ができるような雰囲気作りは大切にしている。夕食は、夜勤者が利用者と同じ食事を食べている。		
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調と一日の摂取量を把握している。食事が摂れにくくなった場合は、看護師、栄養士と相談しながら、本人の好きな物を提供している。水分摂取の重要性も職員が理解し、提供できる種類も多く準備している。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を職員が理解し、毎食後の口腔ケアを実施している。自分でできない方には援助し、できる方にも磨き残しがないか確認をしている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄サイクルを把握し、介助を行っている。誘導の際も、プライドを傷つけないように声かけなどに配慮している。排泄用品も本人に合わせて検討している。		
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、薬に頼るのではなく水分摂取に留意したり、乳製品を摂っていただくようにしている。散歩等体を動かす機会も設けている。下剤を服用する場合は、主治医に相談をしている。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の希望を確認し、入っただけでいい。拒否をされる方については、声かけや対応を工夫している。		
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整えるように努めるとともに、その日の体調や希望なども考慮し休息がとれるように心掛けている。夜眠れない方には、温かい飲み物を飲みながら話をするなど配慮している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	副作用については職員が把握している。服用時は、職員が名前を確認のうえ手渡しをし、服薬が確実に行えた事を確認している。薬が変わった時は、職員に伝達し状態を記録し、主治医にも報告をしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味を活かし個々の能力が発揮できる場面を作っており、役割の大切さを支援している。外出先やおやつ、食事作りも利用者と一緒に相談しながら行っている。		

福岡県 グループホーム 照日ヶ丘

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの楽しみ事に合わせて買い物や、外出ができるように努めている。歩行が困難な方にも車いすを利用したり、みんなでお弁当を持参し外出する機会も設けている。		
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持つことの意義を理解し、ご家族と相談しながら、本人の金銭管理の支援に取り組んでいる。事業所で管理している方でも買物等の際は、自分で支払っていただけるようにしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話ができるように配慮している。またご家族や知人から贈り物が届いた時等は、お礼の電話をしたり、手紙が届いた時は、できるだけ返事が出せるように配慮し、関係が途切れないように配慮している。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に心掛け、植物を飾ったり利用者に季節の花を活けていただく等し、季節感を感じていただけるようにしている。		
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールや廊下などにソファーや椅子を置き、一人で過ごしたり、気の合った方同士でくつろげるようにしている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用される際に、使い慣れた物、馴染みの物が環境作りに重要性などを理解していただき、できるだけ持ち込んでいただくようにしており、居心地の良さを配慮している。		
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりにとって何がわかりにくいのか、どうしたらできるのかを職員で話し合い、少しでも安心し自立した生活が送れるように努めている。		